

## 変 化

トレンドマイクロ株式会社 戦略企画室 統合政策担当部長  
JNSA 会員交流部会長  
小屋 晋吾



一昔前、情報セキュリティは特別なものでした。コンピュータウイルスを例に挙げれば、少数の攻撃者がきわめて洗練されたコードで書かれた不正プログラムを配布し、ごく狭い範囲で、しかしまれには世界規模で感染を起こしていました。それを社内の一部のセキュリティを理解した人が、いくつも種類のない選択肢の中から対応するセキュリティツールを導入し対策を施しました。しばらくの期間をおいてさらに新しいテクノロジーを利用した不正プログラムを書く者が現れ、セキュリティベンダーはその脅威に対応する新たなツールを作り出し、セキュリティ担当者がそのツールを導入して対策する。そのような時期が一定の間続いていたように思います。それはそれで一般的には許容できる範囲の安全が保たれており、セキュリティ担当者は新たな攻撃を恐れつつもその脅威を迎え撃つために情報収集と製品探しを続けておりました。

当時トレードショーに行けば、いろいろな新製品がブースを飾り、これはいったい何に使うのか、そんな脅威が世の中にあるのか、と非常に興味深い時間をすごせたものでした。

時は過ぎ、いまやセキュリティは特別なものでなく、誰しものが意識しなければならない大きなリスクへと変化していきました。会社にあっては多くの社員が機密・個人情報の漏洩に頭を悩まし、自身が扱う情報のたな卸しをおこないます。家にあっては子供が使うPCにフィルタリングソフトを導入し、無線LANの暗号はWEPでは不安だが他を使うと子供の携帯ゲーム機が繋がらないし・・・と頭を悩ませるのです。

脅威においても何もかもが新しいテクノロジーというわけではなく、むしろソーシャルエンジニアリングを駆使したり、クラウド利用やモバイル端末の使用によるIT環境の変化から生まれる新たな脅威が多くなったりしているのが現実ではないでしょうか。

対策も変わりつつあります。ツールの有効利用は大事ですが、セキュリティマネジメントに重きを置く必要が出てきています。さらに上を目指すのであれば、これからはより人間系を重視したセキュリティ対策が重要になってくるのかもしれない。

JNSAにも変化が訪れています。

接続実験や技術的な検証のみならず、最近では調査研究や標準化の検討も重要な活動の軸になってまいりました。セキュリティ人材育成・教育に関する活動も高い評価を得ています。さらには海外諸団体との交流・提携も始まり、よりグローバルな視点でセキュリティを捉えていけるようになると思います。会員交流部会では会員間の交流を通じて、これら活動から得られる知見や社会への影響力を加盟各社があまねく享受できるよう「場」の創設ができればと考えております。

私自身、力不足ではございますが、会員交流部会長として努力してまいりますので、ぜひ皆様のご指導とご協力をよろしくお願いいたします。